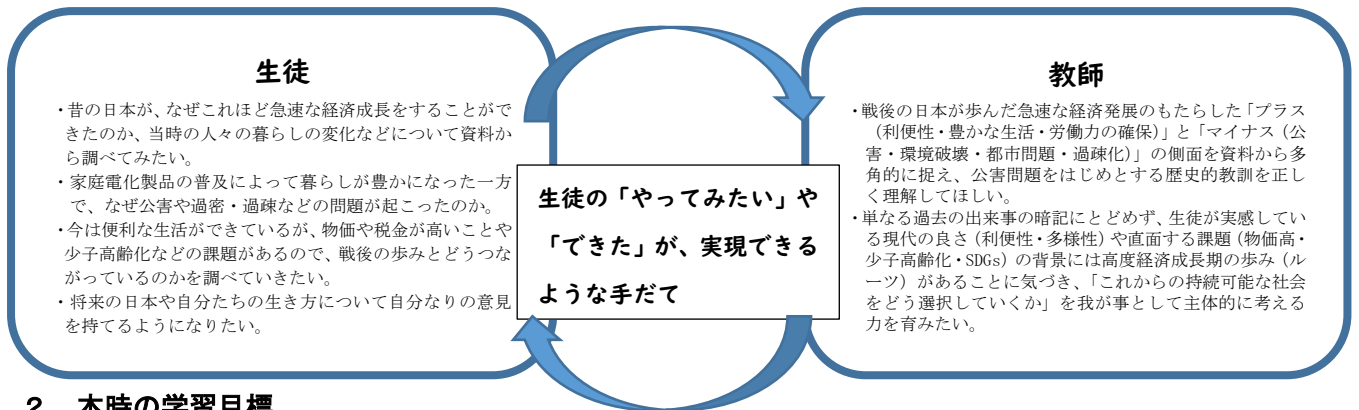


1. 生徒と教師の内省の往還 (実施アンケートより)



2. 本時の学習目標

- ・日本の高度経済成長が今日の私たちにもたらした「光」と「影」の側面について考えることができる。

3. 学習活動 (本時6 / 10)

学習活動	
・生徒の思考、表現等	・教師の手立て、支援
① 前時の振り返りと課題の設定をする。(10分) <一斉>	
<ul style="list-style-type: none"> ・前時の「三種の神器」を思い出す一方、アンケートでの「昔は公害があった」というクラスの声から、「なぜ豊かになる一方で問題が起きたのか」という矛盾を抱く。 ・対比資料を見て、気づいたことをClassCloudに同時投稿する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・冷戦や占領政策の転換、集団就職等の前時のまとめを確認する。 ・レディネスアンケートの結果を共有し、経済成長のグラフと公害の写真を対比提示して揺さぶりをかける。 ・★【手だて①】 1行程程度の短い気づきを同時投稿させ、全体で共有する。
日本の高度経済成長が今日の私たちにもたらした「光」と「影」の側面について考えよう。	
② 事実カードの分析と因果関係の構築 (20分) <個>	
<ul style="list-style-type: none"> ・ClassCloudの「事実カード」を資料集を基に読み解く。 ・「家電普及→家事軽減→女性の社会進出」や「人口集中→労働力確保→過密・過疎・公害」という事象のつながり(構造)に気づく。 ・矢印(コネクション機能)を使ってClassCloud上でマップ化する。 ・行き詰まった際はClassCloudの「2つのAIアドバイス」にヒントを求め、修正する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事実カード(家電普及、人口集中、過密・過疎など)をClassCloudにランダム配置する。 ・★【手だて②】 最初から答えを与えず、カードを矢印で結ぶ活動を通して、事象の「光と影」の表裏一体性に自ら気づかせる。 ・ClassCloud上のプラス担当・マイナス担当の「2つのAIアドバイス」を起動させ、多角的な思考を促す。
③ 多角的な共有と現代への往還・振り返り (15分+5分) <協働→個>	
<ul style="list-style-type: none"> ・友達が多様なマップ(ジェンダー視点・地域視点など)を見ることで、視野を広げる。 ・当時の「経済優先の歩み」を理解した上で、自分たちが直面する現代の課題(少子高齢化・物価高)に思考を引き戻す。 ・**「歴史の教訓を踏まえ、これからの社会で何を優先すべきか」**について、自分の考えを記述する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる視点で繋いでいる生徒のマップを数名分ピックアップして画面共有し、価値づけする。 ・★【手だて②(終末)】 歴史的な構造をふまえ、現代や未来の社会のあり方(SDGs等)と結びつけたリフレクション(振り返り)をClassCloudに入力・蓄積させる。

4. 評価

- ・日本の高度経済成長について、現代社会を生きる私たちの生活にもたらした影響を多面的・多角的に考察し、表現している。(思考・判断・表現: 振り返りの記述内容、協働学習の話し合い等)